

科目名	英語コミュニケーションⅡ			学期	後期		
最低面接時数	8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	選択科目（C英語Ⅰまたは英語CⅠ既修得者のみ登録可）			開講する場所			
				高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄や誤答の極端に多いレポート並びに採点で60点に満たないレポートは、再提出させ評価を！ 2. 提出期限に遅れた場合は評価を2とし、再度期限に遅れた場合は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。			
	面接指導		各回	1. 出席時数の多い、少ないでは評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位を認めない。			
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

幅広い話題について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうと

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

単語が少し難しく感じられたり、いろいろな熟語・構文が出てくるが、内容的には英語入門・英語Ⅰで学習してきたことに少し応用を加えた科目である。比較、不定詞、関係詞、知覚動詞、使役動詞、仮定法過去などを学習する。進学や就職など、将来的に英語が必要となる人はもちろんのこと、興味があってもある人には是非とも選択してもらいたい。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	CⅡ701	All Aboard! English Communication Ⅱ	2東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	Lesson 6 Seeds for Future Generation	wonder if +S(主語)+V(動詞)及び ask + 人(目的格) + if +S(主語)+V(動詞)の表現	
2	10/15	Lesson 7 Over the Wall	関係副詞 where と when	
3	10/29	Lesson 8 Inspiration from Nature	知覚動詞の表現 [see(saw)/hear(heard)/feel(felt)] + 人(目的格)or 動物 + ~(原形動詞) or -ing などの表現	
4	11/12	Lesson 9 Bitter Truth behind Chocolate	使役動詞の表現 [make(made)/let(let)/have(had)] + 人(目的格) + ~(原形動詞)	
5	11/26	Lesson 10 Fighting Angel	分詞構文	
6	12/10	後期学習範囲のまとめ	テスト対策プリントを兼ねたLesson6～10の確認と復習	

6. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	[知識・技能] 各Lesson中の重要文（ターゲット文）や文法事項の形・意味を理解する。 [技能] 各Lessonで学んだ文、文法事項などの理解をもとに、同Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けている。	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄や文化などについて書かれた文章の概要を捉える。また、学んだ事柄を学んだ後に、筆記や口頭による表現している。更に、各課の中で紹介される事柄を自分自身や日本の場合など対比させて考えようとしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価する。		

科目名		情報 I			学期	後期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		高等学校在籍2年目以降			開講する場所				
					本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。					
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にもめない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技						

1. 目標

情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- (1) 現在の情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解する。
- (2) メディアの特性やコミュニケーション手段について理解し、情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。
- (3) コンピュータの仕組み、モデル化とシミュレーション、アルゴリズムとプログラミングなどを学ぶ。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	情 I 706	図説情報 I	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/8	序章 情報社会と私たち	情報や知識, IoT, 人工知能 (AI) について学ぶ。 ネットワーク上のルールとマナー, 情報の受信者・発信者としてのモラルと責	
2	10/29	1章 情報社会と問題解決	問題解決の意味を理解し, 問題解決の流れについて学ぶ。	
3	11/19	2章 コミュニケーションと情報デザイン 3章 情報とコンピュータ	ネットワーク上のコミュニケーションのメリットとデメリット (即時性, 利便性, 保存性, 匿名性) について学ぶ。	
4	12/10	4章 アルゴリズムとプログラム 5章 モデル化とデータの活用	アルゴリズムの基本構造 (順次, 選択, 繰り返し), プログラム構造について学ぶ。	
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報社会と人の関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		家庭総合			学期	後期			
最低面接時数		4時間	レポート数	4回	テスト	有	単位数	2単位	
履修できる条件		全籍校で家庭総合・家庭基礎・生活技術を未修得の生徒			開講する場所				
					本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋農業	本校(月曜)
評価計画	添削指導	5割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。 4.実習未提出は、単位修得を認めない。					
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。					
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。					
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	5割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。 3.実習も重視するため、レポート課題の実習を定期テストの20%分とする。					
			試問実技						

1. 目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

後期では、第6章～第11章「生活の自立」をテーマに、食生活をつくる・衣生活をつくる・住生活をつくる・経済生活を営む・持続可能な生活を営む・これからの生活を創造する・ホームプロジェクトについて学習する。また、調理実習・被服実習の課題を課しているため、自宅ですっかり実習することも大切な学習内容となっている。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	家庭・701	家庭総合 自立・共生・創造	2・東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	第6章 食生活をつくる・ホームプロ計画	調理の基礎/食生活の文化と知恵/これからの食生活/ホームプロジェクト計画	
2	10/15	第8章 住生活をつくる	住生活について考える/住生活の計画と選択/住生活の文化と知恵/これからの住生活	
3	11/5	第7章 衣生活をつくる	被服の役割/被服を入手する/被服を管理する/被服を作る/衣生活の文化と知恵/これからの衣生活	
4	11/26	第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 生活を創造する ホームプロ	情報の収集・比較と意思決定/購入・支払いのルールと方法/消費者の権利と責任/生涯の経済生活を見通す/持続可能な社会を目指して/生	
5				
6	12/3	調理実習・被服実習	調理(お弁当) 被服(ボックスティッシュカバー)	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的に根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		保育基礎			学期	後期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	2 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		本校2年目以降の生徒、家庭総合・家庭基礎・生活技術を修得済の生徒（3年次生は家庭総合との同時履修可）			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。 4.実習未提出は、単位修得を認めない。						
		全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。						
	面接指導	各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。						
		全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。 3.レポート課題の視聴覚学習記録を定期テストの10%分とする。						
		試問実技							

1. 目標

保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて理解し、子供を取り巻く課題を発見し、解決する力を身につける。また、子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

子供の保育、子供の発達、子供の生活と養護、子供の福祉、子供の文化の子どもの感覚・運動・身体・情緒などの発達の特徴を理解し、どのような関わりが必要かなど、総合的な保育の知識と技術を身につける。実際に子どもとの触れ合う学習が求められるが、通信制では実施が困難なため、毎時間のスクーリングの際に子どもの成長に関わるDVDを視聴し、その学習記録をレポートの課題としている。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	家庭706	保育基礎 ようこそ、ともに育ち会う保育の世界へ	6教団
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	3章 子どもの生活	子どもの食事	
2	10/15	3章 子どもの生活	子どもの健康と安全	
3	11/5	4章 子どもの福祉	保育にみる児童観／児童福祉の理念と法規・制度	
4	11/26	5章 子どもの文化	子どもの文化の意義／子どもの文化を支える場／子どもと遊び／子どもの表現活動	
5				
6	12/3	視聴覚教材学習記録		

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	保育に関する基礎的・基本的な知識や技術を体系的・系統的に身につけている。子供の発達特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子供を取り巻く課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切な判断や工夫、表現する力を身につけている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	ビジネス・コミュニケーション			学期	後期		
最低面接時数	4時間	レポート数	4回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	高等学校在籍2年目以降			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にもめない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- (1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	商業704	ビジネス・コミュニケーション	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	1章 企業の組織と人間関係	・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。	
2	10/15	2章 応対に関するビジネスマナー	・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。	
3	11/5	3章 交際に関するビジネスマナー 4章 接客に関するビジネスマナー	・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解する。 ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解する。	
4	11/26	5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 7章 コミュニケーションとビジネススキル	・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを理解する。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	ビジネス・マネジメント			学期	後期		
最低面接時数	4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件	高等学校在籍2年目以降			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にもめない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- (1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	商業706	ビジネス・マネジメント	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	第1章 ビジネスの創造	・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントの意義と課題について自らの考えをもち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学ぶ。	
2	10/15	第2章 ビジネスの組織化	・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付ける。	
3	11/5	第3章 経営資源のマネジメント	・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。	
4	11/26	第4章 ビジネスの変革 第5章 ビジネスと社会	・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解する。 ・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解する。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見するとともに、経済社会の動向や成功事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		総合探究C		学期	後期			
最低面接時数		2時間	レポート数	2回	テスト	無	単位数	2単位
履修できる条件		開講する場所						
		本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)		
評価計画	添削指導	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出とし評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
		全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断します。					
	面接指導	各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にも含めない。					
		全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	定期	実施しません					
		試問実技						

1. 目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

様々な課題(テーマ)について、インターネットなどを活用しながら調査してレポートを仕上げます。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	学習内容	備考
1	10/29	防災	
2	11/26	主権者教育・社会参加・地域を調べる	
3			
4			

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		総合探究D			学期	後期		
最低面接時数		1 時間	レポート数	1 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		開講する場所						
		本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)		
評価計画	添削指導	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出とし評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
		全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断します。					
	面接指導	各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にもめない。					
		全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	定期	実施しません					
		試問実技						

1. 目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

様々な課題（テーマ）について、インターネットなどを活用しながら調査してレポートを仕上げます。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	学習内容	備考
1	11/5	調査と報告	
2			
3			
4			

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		